

- 憲法および教育に関する諸法規
- 学習指導要領
- 東京都 教育目標
- 小平市 教育目標

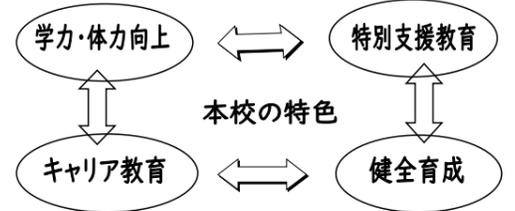
学校教育目標
 豊かな心を養い 学力・体力の向上を目指し
 未来へはばたく人物を育成する

- 1 心身ともに健康で 自らを鍛え 努力する人
- 2 進んで学び 社会のために尽くす人
- 3 認め合い 支え合う心優しい人

- 最重要課題**
- ・生きて働く知識・技能の習得
 - ・未知の状況でも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成
 - ・学びを人生や社会に生かそうとする
 - ・学びに向かう力・人間性等の涵養
 - 豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となる生徒の育成

学校経営方針 ～人間尊重の精神に徹し情操豊かで実践力のある人物を育成する～

- ・すべての子どもに生きる力を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識と技能を習得させる
- ・授業改善プランを活用して、計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルを生かした指導
- ・小学校と連携し中学校で必要な基礎的・基本的事項の定着に努め、習熟度別少人数学習指導等の指導方法の工夫・改善と実践を図る
- ・特別支援教育の視点にたった環境・授業づくりを目指し、分かる授業を推進する
- ・家庭と協力しながら、生徒が自ら計画的に家庭学習に取り組めるよう積極的に指導する
- ・情報教育を体系的に位置付け、情報化に対応した指導とICT機器を活用した授業改善



各教科の指導の重点

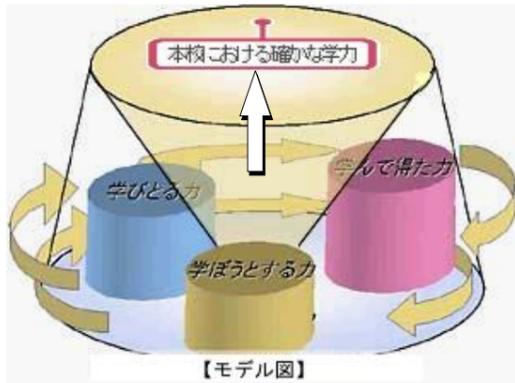
- ・「授業改善推進プラン」に基づき、個に応じた指導法(少人数授業・TT 他)を生かし、個に応じたきめ細かな指導を行う
- ・基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させ、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力等の育成を図る
- ・言語活動の充実を図るため、「読む」「書く」「聞く」「話す」を意識した授業を組み立てる
- ・話し合い活動はもちろん、ICT 機器の活用などを通して、意見を交流する場面を増やし、他者の意見を広く聞き、理解を深める
- ・生徒の授業評価等を活用し、指導の方法を工夫・改善する
- ・HP を通して授業の様子を広く紹介し、家庭や地域社会との連携を図る

本校における「確かな学力」

本校では学習指導要領に示された基礎・基本を重視し、自ら学び自ら考える力を育成する。

学習に興味や関心をもつ、疑問に思う、目的が明確になるなどによって「学ぼうとする力」が獲得される。そして、自らやってみる、練習する、課題を自分で考え工夫する、などによって「学びとる力」が獲得される。さらに、分かった、できた、完成した、解決したという状況に至るとき、「学んで得た力」が形成される。「学んで得た力」に含まれる達成感や成徳感、さらに次の問題解決への意欲(学ぼうとする力)を引き出すことができる。これらの活動を繰り返すことにより、「確かな学力」並びに「主体的に学習に取り組む生徒」が形成されていくと考えられる。

さらに新しい学習サイクルである「自分で考える」→「自分の考えを授業で確認する」→「理解を深める」自主学習を推進する。



道徳教育の指導の重点

- ・心身の健康増進のため、望ましい生活習慣や食習慣を習得させ、理想や目標を目指し粘り強く積極的に取り組む態度を養う
- ・勤労と奉仕の精神に基づく協調性と自主性のある人間を育て、人間としてよりよい生き方について考える力を育てる
- ・道徳教育推進教師を中心に、年間指導・評価計画に基づき、毎時間の指導や生活の中で道徳的実践力を高める
- ・道徳の授業の様子を保護者会等や HP を通して広く紹介し、家庭や地域社会との連携を推進する
- ・生命の尊さを理解できるように、かけがえない自他の生命を尊重する心を育てる

総合的な学習の指導の重点

- ・自ら設定した課題を解決するために、調べ学習や体験学習、発表会等の活動や探求活動を通して、自ら考え、自ら課題を見付け、解決する力、豊かな表現力等を身に付け、一連の学習活動を通して、学び方やものの考え方を身に付け、主体的に生きる力の育成を図る

特別活動の指導の重点

- ・自主的、実践的な活動を通して個性を伸ばし、自主性、創造性を高めるとともに、目的に向かい協力してやり遂げる達成感を体験し、自己を生かす能力と望ましい人間関係をつくる力の育成を図る
- ・心身の健全な発達と、自他の安全を確保する能力を高め、秩序と調和のとれた集団や社会の一員としての在り方について考える力を育てる

進路指導の重点

- ・キャリア教育の系統的指導を目指し、新入生体験入学や出前授業などを充実させ、連携小学校との円滑な接続を図る
- ・キャリア教育を通して、望ましい勤労観・職業観を育み、よりよい生き方を探求する

その他の指導の重点

- ・特別支援学級との交流を推進し、「相手を理解し、思いやり、支える」心と態度を育てる
- ・読書マラソン等の取り組みを通して、日常的に読書に親しみ、読書の習慣化を図る
- ・チームティーチングによる指導体制で生徒の体力・精神力の向上に取り組む

生活指導の重点

- ・自主的、自発的な活動を通して集団への所属感を高め、協力、親和、友情などの意義を実践の中で体得させ、好ましい人間関係を育てるとともに、規範意識を醸成する
- ・深い生徒理解に基づいて、基本的生活習慣の育成や、個に応じた指導の工夫を図る
- ・特別支援教育推進委員会を中心に、学校生活支援シート等を作成し、特別支援教育を推進する
- ・学校サポートチーム等を活用し、相談・助言等を通じ地域ぐるみで生徒の健全な育成を進めていく
- ・いじめ防止授業、ふれあい月間を通して、自己や他者の生命を尊重する態度を育成する
- ・教育相談活動を組織的にを行い、問題行動の早期発見・早期対応を目指す

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動や ICT 機器の活用で、意見交流の場面を増やし、他者の意見を広く聞き、理解を深めるとともに生徒の自己有用感を育み、学習意欲の向上を図る ・重点的な指導や繰り返し指導などの指導計画やチームティーチングや習熟度別少人数指導などの指導体制を充実させる ・ICT 機器を活用した授業を展開し、自主学習を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時数の管理を適切に行い、授業時数の確保に努める ・校外学習等の行事を適切な時期に配置し生活のリズムを適正にする ・感染症などの社会情勢に応じて、オンライン授業等を行い、学習の遅延を減らし、生徒の学習の機会を保障する 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導力・授業力の向上を図るための校内研修会を毎学期、実施する ・教科等研究会等の成果を校内に還元する ・特別支援教育に対する理解を深めるために、巡回相談員と連携を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・形成的評価・総括的評価等を適切に実施し、指導計画等の改善に役立てる ・生徒による授業評価を2学期末に適切に実施し、その変容を確かめ、授業の改善に資する ・授業改善につながる学校関係者評価を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会や三者面談において各教科の指導計画・評価計画等の説明を行う ・面談の機会を全校で設定し、生徒や保護者との相互理解を深める ・地域の人材や学生ボランティアを積極的に導入し、学習支援を充実する

令和6年度 授業改善プラン

教科名 国語科
小平市立花小金井南中学校

1. 日常の学習状況・課題		
1年	学習面	(1) グループ活動に前向きに取り組む姿勢が見られる。発言では、多くの生徒に発言の機会を与えたいため、ランダムに指名しているが、自信をもって発言する生徒が多く、生徒の発言で授業が進んでいる。 (2) 読書欲が旺盛で、読書マラソンの進捗が速い生徒が多く見られる。週に2~3回実施している漢字小テストでは、平均点が非常に高く、漢字学習には引き続き注力していきたい。 (3) 説明的文章の読解に長けている反面、物語文や小説では登場人物の心情が捉えきれない部分がある。この要因として、心情を表す語彙力の不足が考えられる。
	指導面	(1) 教材に関係ある画像や映像を調べ学習で見付けたり、補助教材として使用することで、教材の理解を深める工夫をした。 (2) 話し合い活動を毎授業一回以上行うことで授業への参加意識を高め、クラス全員で授業を構築できるようにした。 (3) 読解の基礎基本をわかりやすく説明し、演習を繰り返すことで「読み方」「考え方」「まとめ方」の指導を行った。
2年	学習面	(1) 授業に真面目に取り組んでおり、グループでの話し合い活動で他の意見を聞きながら自分の考えを深め発表することができる。 (2) 文章の主題の読み取りに慣れ、平易な読解は十分できる生徒が多い反面、行間を読んだり想像して読んだりすることに苦手意識をもった生徒もいる。 (3) 作品に対する自分の考えを分かりやすい表現を使って相手を納得させるように述べられるようになってきた。
	指導面	(1) 授業の中に4人組によるミニトークタイムを入れること(グループ活動)で、積極的に授業に関わる機会を設けた。 (2) 画像や映像を補助教材とし、教科書に沿ったワークシートを作成して基本読みを行い、グループや全体での話し合い活動を通して主題に迫る授業を展開した。 (3) 定期的に学習のまとめに文章を書く学習を取り入れたり、音読テストや暗唱テスト、漢字テストを行って書くことや読むこと、漢字に対する抵抗感をなくし、継続的、自主的な学習を促した。
3年	学習面	(1) 授業に集中して取り組み、グループでの話し合い活動では積極的に発言する一方で、全体の場で自ら意見を言うことには自信をもていない生徒もいる。 (2) 文学的文章で物語の流れや登場人物の心情を読み取ること、説明的文章で情報を比較して整理することは慣れてきた。一方で、自分の意見を展開する際に文章に誤りがあったり、伝わりにくい言葉になったりすることが多い。
	指導面	(1) グループでの話し合いを定期的に設けるとともに、全体での発言の前にペアワークで確認をして自信をもって発言できるようにした。 (2) ロイノートの共有機能を用いて、それぞれの考えを互いに共有して考えを伝えることで改善できる機会を作った。

2. 授業改善プラン		
1年	学習面	(1) 漢字や音読の反復練習、暗唱などに継続して取り組ませる。 (2) 書くことに力を入れ、自分がまとめた物を元にしたグループ活動や発言・発表活動を多く取り入れる。 (3) 物語文や小説の指導の際、心情を表す語句を提示する等、話し合いを工夫することによって、物語文の読解に注力していく。
	指導面	(1) 漢字や音読、簡単な小テストを定期的に導入し、学習の意欲や取り組みが継続していくように配慮する。 (2) 4人班での話し合い活動を定着させ、他人の意見を聞き実際に発言することで自分の読解と発表力の向上を助けさせる。 (3) 生徒が主体的に問題点に気づくような言語活動を用意し、生徒主体で読解を進めていく。読解力が足りていない際にも、直接的な問いではなく、生徒に気づきを与える発問を心がけていく。
2年	学習面	(1) 話し合い活動で他者の意見を聞こうとする姿勢を養い、積極的に発言することで自分の読解や考え方を深めていけるようにグループ活動に取り組ませる。めあてやねらいをもたせる。 (2) 発表活動、話し合い活動、音読活動を通し、他者の長所に倣い、よりよい言語活動を切り拓く。 (3) 感想文やまとめ作文以外にも短歌や俳句などの文芸作品や読書紹介など多様な文章を書き、表現の仕方を身に付ける。 (4) 漢字学習や音読練習に取り組む、自主的で継続的な学習を確立させる。
	指導面	(1) 話し合い活動や発表活動で他者の意見や表現を資料・メモなどを用意し、それらを参考にして自分の考え方を深めさせる。(学ぶは真似ぶ) またグループ活動にめあてやねらいを明確に設定して取り組ませる。 (2) ICTを活用し、知りたいときに知りたい資料を提示したり、学習の流れがスライドで把握できるような視覚的教材を準備する。 (3) 主体的に読み取り自分の考えを伝えられるように興味関心の持てる作品を教材として選ぶ。 (4) 漢字テストや音読テスト、暗唱テストなどを継続し、読み書きに自信をもたせると同時に自発的継続学習を促し評価していく。
3年	学習面	(1) グループ活動の際にただの意見発表で終わらないように、「なぜそう考えたのか」という視点をもたせる。そうすることで、他者の意見をより理解したり、自分の考えを新たに構築したりすることができる。 (2) 文章の特徴に応じた読解方法を確立し、それに対する自分の考えをもたせる。それを言語化する際にはなるべく短い文章にしたり、伝わりにくい言葉を言い換えたりすることで、他者に伝えるということを意識したアウトプットを行わせる。
	指導面	(1) グループ活動の際に話し合いの目的を明確にし、必ず理由や根拠を述べるように指導する。 (2) ICTを用いて意見の共有を図り、共有した意見に対する考えを伝え合う活動などを取り入れて、他者の考えから新たに自分の考えを構築したり、自分ではもっていなかった視点に気付かせたりして、互いの考えを深め合えるようにする。

3. 授業改善プランの評価(成果の確認)		
(1) 定期テストや小テストの実施 (2) 各学期ごとの観点別学習状況の評価と比較 (3) 生徒による自己評価(理解の程度など)		

授業改善推進プラン

教科名:社会科

小平市立花小金井南中学校

1 日常の学習状況・課題		
1年	学習面	①社会を苦手としている生徒もみられるが、興味・関心をもって授業に取り組んでいる生徒が多い。 ②社会的事象に関して、その背景や影響等を考える思考力に課題がある。 ③複数の資料から必要な情報を読み取る力に課題がある。
	指導面	①单元ごとに单元テストを実施し、基本的な知識が定着できるようにしている。 ②社会的事象に対して、様々な視点で考察するように促している。 ③資料を読み取るポイントを指示しながら、より多くの資料の提示、読み取る時間を設けている。
2年	学習面	①地理・歴史について興味・関心をもって授業に取り組んでいる。 ②資料から必要な情報を読み取る力に課題がある。 ③社会的事象について、その背景や影響等を考える思考力に課題がある。
	指導面	①毎時間に授業プリントを配布し、知識が定着できるようにしている。 ②授業プリントを使い、自分の考えをまとめさせ、思考力の向上を図っている。 ③プレゼンテーションソフトを活用し、視覚的に資料を提示して、社会的事象をとらえる指導をしている。
3年	学習面	①社会を苦手とする生徒がいて、基礎知識の習得に課題があるが意欲的に授業に取り組む生徒も多い。 ②社会的事象に対して、資料などをもとに、その背景や、影響など考える力に課題がある。 ③考えたことを簡潔にまとめ、表現する力が少しずつついてきている。
	指導面	①授業後にスタディサプリの宿題を配信し、基本的な知識が定着できるようにしている。 ②毎時間、資料を読み取る時間を設定し、資料を読み取る力の向上を図っている。 ③单元シートを活用し、自分の考えなどを整理させ、思考力・表現力の向上を図っている。

2 授業改善推進プラン		
1年	学習面	①知識を定着させるために、学んだことを表現する活動を増やす。 ②映像資料などを教科書の内容に関連づけ、様々な立場から考えるようにする。 ③授業プリントや教科書、様々な資料と関連づけ、多面的・多角的に事象をとらえるようにする。
	指導面	①重要事項などを生徒に伝えた上で单元テストを実施し、基本的な知識の定着を図る。 ②グループ学習などを活用し、他者の意見を取り入れ、自身の意見を再構成する活動を増やす。 ③多面的・多角的なものの見方ができるように、資料を厳選した上で複数提示する。
2年	学習面	①学習者用端末(タブレット)を使い、主体的に学習に取り組む活動を行う。 ②各資料のデータを授業内で取り入れ、情報活用能力、推論して解決する力を高めさせる。 ③授業プリントや教科書、様々な資料と関連づけ、多面的・多角的に事象をとらえるようにする。
	指導面	①单元計画を見直し、探究学習など取り入れ、主体的に学ぶ活動を行う。 ②グループ活動を積極的に行い、資料の読み取りや他者の意見も聞き、思考力を深めさせる。 ③多面的なモノの見方や考え方を意識して、時事問題や教材を選び、提示する。
3年	学習面	①学習者用端末、デジタル教材を効果的に活用していく。 ②資料から読み取ったことを話し合い、他者の意見を聞いて自分の考えを再構築する。 ③授業プリントや教科書、様々な資料と関連づけ、多面的・多角的に事象をとらえるようにする。
	指導面	①单元シートなど、社会的な「見方・考え方」を働かせられるような問いを設定する。 ②複数の資料を提示するなどして、様々な視点から社会的事象を考えられるような場面を設定する。 ③話し合い活動などを設定し、自身の考えを深め、また他者に伝える力を付けていく。

3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)	
(1) 観点別学習状況の評価の前年度との比較	
(2) 定期テスト、小テスト、小プリント。	
(3) 授業アンケート、レポート、コンクール作文等。	
(4) 授業内容についての自己評価表。	

1 日常の学習状況・課題

1年	学習面	(1) 一部であるが計算力を中心とした、基礎学力の向上が課題である。 (2) 授業にも慣れ、積極的・意欲的に数学の学習に取り組む生徒が増えてきた。
	指導面	(1) 学力の定着に課題のある生徒の補充学習を行い、学力向上を図っていく必要がある。 (2) 「思考力・判断力・表現力」を向上させる指導が必要である。
2年	学習面	(1) 意欲的に学習に取り組む生徒が増えてきた。 (2) 「知識・技能」については、一定のレベルを保っている。これからも「思考力・判断力・表現力」を中心に実力を高める指導が必要である。
	指導面	(1) 学力の定着に課題のある生徒の学力向上を図っていく必要がある。 (2) 「思考力・判断力・表現力」の力を高めさせる指導が必要である。
3年	学習面	(1) 意欲的に学習に取り組む生徒が多い。 (2) 「知識・技能」については、一定のレベルを保っている。「思考力・判断力・表現力」が身に付く指導が必要である。
	指導面	(1) 生徒のさらなる学力向上が課題である。 (2) 「思考力・判断力・表現力」高めていく授業が必要である。

2 授業改善推進プラン

1年	学習面	(1) 繰り返し学習させることにより、基礎学力を身に付けさせる。それとともに達成感を感じ、より意欲を高める工夫を行っていく。 (2) 学習の定着状況等についての単元テストややり直しテストを行い学習の定着を行う。
	指導面	(1) 学力の定着に課題のある生徒に対する対策として、補充教室をするなど、個別の対応を行う。また、TT(チームティーチング)を生かし、学び合い学習を取り入れ、分かる生徒が苦手な生徒に教える場面を作り、様々な生徒が達成感を得られるよう取り組む。 (2) 文章題を扱う時間を増やし、文章題作成についても授業に盛り込んでいく。また、問題に対するヒントなど設問を工夫し、考える時間をできるだけ確保する。
2年	学習面	(1) 反復練習をさせることにより、基礎学力を身に付けさせる。達成感を味わわせ、より意欲を高めていく。 (2) 学習の定着状況等についての小テストややり直しテストを行い学習の定着を行う。
	指導面	(1) 学力の定着に課題のある生徒に対する対策として、基礎学力補充課題を作成するなど、習熟度別少人数授業を生かして個別の対応を行う。 (2) 文章題応用問題を扱う時間を増やしていく。また、問題に対するヒントなど設問を工夫し、考える時間をできるだけ確保する。 (3) 既習事項を、身近な事象に活用する課題を取り上げ、自分の考えを発表する時間をつくる。
3年	学習面	(1) 繰り返し学習と反復学習を状況に応じて取り入れることにより、基礎学力が定着し達成感を感じることで意欲を高めていく。 (2) 学習の定着状況等についての小テストやテスト直しテストを行い学習の定着を行う。
	指導面	(1) 学力の定着に課題のある生徒に対する対策として、習熟度別少人数授業を生かして、計算力向上のため個別に対応する。 (2) 文章題などの発展的な問題を扱う時間を増やし、既習事項の活用の仕方を練習する。 また、問題に対してヒントとなる設問を入れて、じっくり考える時間や学び合い学習を行う時間を確保する。

3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)

- (1) 定期考査での学習結果の前年度との比較と成績下位層と上位層の生徒の変容
- (2) 観点別学習状況の評価の変容
- (3) 学期末・年度末に「生徒による授業評価」を実施

授業改善推進プラン 教科名：理科 小平市立花小金井南中学校

1 日常の学習状況・課題		
一年生	学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の学びを新鮮に感じ、積極的に取り組み、新しいものの見方、考え方を身に付けつつある。たくさんの視野をもつことに興奮を覚え、楽しみながら学ぶことができているが、習慣的にノート・課題づくりをつくることに成功した生徒と苦戦した生徒にわかれているため、学ぶ範囲の広がりや知識の量に対応できず、定着を図るための行動が足りていない。 ・授業内で取り組むことの大切さを感じているが家庭内の定着するための行動とその習慣がまだ未熟である。
	指導面	<ul style="list-style-type: none"> ・伝え合う活動により、発信と受信、思考の再構築の芽が育ち始めている。科学の知識が人によって発見されたものであることを感じさせ、ただあるのではなく人の営みの中、気づきの連続によって生まれたものであることを理解させる。
二年生	学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や家庭学習にきちんと取り組んでいる生徒は多い。 ・知識理解の問題に比べて、思考表現の問題の得点率が低い生徒がいることから、科学的思考や記述を不得意とする生徒が一定数いる。 ・提出物は、多くの生徒がしっかり仕上げ、提出する習慣ができている。未提出・再提出の生徒も各クラスに数人いる。
	指導面	<ul style="list-style-type: none"> ・考える習慣を付けるために、自分の手を動かし、実感しながら学ぶように、工夫する。 ・日常生活と繋げて、考えられるような場面を増やしていく。 ・生活の中での経験が、圧倒的に不足している気がするので、自然になるべく接するような見本を示していく。
三年生	学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に正対し、見直しをもって観察実験に取り組み、協働学習によって課題解決を図ることができている。事後学習で結果を振り返り、基礎的な知識や技能は習得できているが、考察するときの表現力に多少課題が残っている。 ・科学への興味・関心が高く、それに関する事象・現象に進んで関わるができている。がしかし、科学的に探求しようとする態度に多少課題がある。
	指導面	<ul style="list-style-type: none"> ・課題と関係がある既習事項を振り返り、多面的な見方・考え方を身に付けるよう指導する。学んだことを日常生活や他教科と関連付けることで、学習と社会生活とのつながりを意識し、未知の状況にも対応できる力を育成する。 ・科学史を生かした授業も展開し、先人から学ぶ姿勢を身に付けさせ、自然を総合的に見る力を育成する。

2 授業改善推進プラン		
一年	学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートづくり、振り返り、メモリーツリーづくりを集中して継続的に進めるように活動をしていく。 ・家庭学習のきっかけをつくり、理科から他教科へ習慣化を促していけるようにする。
	指導	<ul style="list-style-type: none"> ・考える時間を確保し、情報共有を行う時間を確保し、アウトプットする機会をつくる。クラス全体に共有する機会をつくる。 ・基礎的な知識が身に付いていない生徒に対しては、語句を丁寧に学ぶ課題を設け、学ぶ習慣をつくる。
二年	学習	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習内容や、生活体験と、現在学んでいることをつなげ、体系的に理解できるよう意図して単元指導計画を作成する。 ・「分からない」ことを恥ずかしながら大切に、表現させていく中で間違いに気付かせるような指導を通して、深い理解に到達させる。 ・提出物のねらいや大切さをより分かりやすく生徒に伝え、「やらされ感」ではなく「有用感」に変えていくようにする。 ・観察の観点を明確にした実験を行い、記録を丁寧にやること、その中から必要な事象を適切に取り上げることを指導していく。
	指導	<ul style="list-style-type: none"> ・課題をより分かりやすく生徒に捉えさせ、考えを深められるようにする。スモールステップで1つ1つ確実に身に付けさせる。 ・まわりの人とのやり取りの際、考える観点を示し、情報共有を明確に行わせる。さらにクラス全体に共有できるような働きかけを行う。 ・討論の前段階で、積極的でない生徒も指名で発表させることで、多くの生徒を討論に巻き込むように意図する。 ・授業最後のまとめの時間を十分に確保できるよう授業運営を行い、机間指導や生徒同士による教え合いができるようにする。
三年	学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事後の（振り返り）まとめメモ、自己評価、レポート作成など、正確かつ粘り強く取り組んでいく。 ・グループごとにテーマを選択し、意見交換しながら協働して課題解決を図り、全体発表を行う。
	指導	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導を行う時間を確保し、生徒一人一人にフィードバックしながら学力の伸長を図っていく。 ・言語活動を通して生徒同士が相互に補い合うよう働きかけ、個としての力を引き出していく。

3 授業改善推進プランの評価（成果の確認）

(1) 1,2年生は、授業評価や学力向上調査の結果より評価を行う。
(2) 3年は復習確認テスト3回の実施とその結果を分析する。
(3) 日常的指導の中での生徒の学習態度や課題に取り組む姿勢、教師の働きかけに来る生徒の反応などを評価する。

1 日常の学習状況・課題		
1年	学習面	(1) どのクラスも向上を目指し、意欲的に授業に取り組んでいる。 (2) 姿勢や発声に気を付けて、音楽を創り上げる意識がある。 (3) 「鑑賞」の学習への取り組みは、静かに落ち着いて鑑賞する態度が身に付いている。
	指導面	(1) 表現活動に必要な発声や楽器の奏法の基礎を身に付けさせる。 (2) 表現の基礎的な知識・読譜力等を身に付けさせる。
2年	学習面	(1) どのクラスも向上を目指し、意欲的に授業に取り組んでいる。 (2) 自主的に考え、音楽を創り上げる意識がある。 (3) 「鑑賞」の学習への取り組みは、意欲的に鑑賞する態度が身に付いている。
	指導面	(1) 表現活動に必要な発声や楽器の奏法をしっかりと身に付けさせる。 (2) 表現の基礎的な知識・読譜力等を身に付け、自ら考え表現する力を付ける。
3年	学習面	(1) どのクラスも向上を目指し、意欲的に授業に取り組んでいる。 (2) バランス、ハーモニーなどを考えて、音楽を創り上げる意識がある。 (3) 「鑑賞」の学習への取り組みは、意欲的に鑑賞する態度が身に付いている。
	指導面	(1) 表現活動に必要な発声や楽器の奏法を身に付け、工夫して表現させる。 (2) 表現の基礎的な知識・読譜力等を身に付け、自ら考え意欲的に表現する力を付ける。

2 授業改善推進プラン		
1年	学習面	(1) 音楽表現をするために、姿勢や演奏の基礎を身に付けさせる。 (2) 音符や楽譜上に記載されている記号を表現に活用できるように意識させる。
	指導面	(1) ホワイトボード、プロジェクター、ICTを活用し、授業の目標、流れを提示、展開する。 (2) 課題の目標を明確に提示し、練習の仕方を具体的に指示する。 (3) 音楽表現に必要な基礎的な知識・読譜力等を身に付けられるよう、ワークシートを活用し、自ら考え、書き、発表させる。また、ICTを活用する。
2年	学習面	(1) 音楽表現をするために、自ら工夫して表現できるようにさせる。 (2) 音符や楽譜上に記載されている記号を表現に活用できるように意識させる。 (3) リーダーを中心に、課題を見付け練習できるようにさせる。
	指導面	(1) ホワイトボード、プロジェクター、ICTを活用し、授業の目標、流れを提示、展開する。 (2) 課題の目標を明確に提示し、練習方法を工夫させる。 (3) 音楽表現に必要な基礎的な知識・読譜力等を身に付けられるよう、ワークシートを活用し、自ら考え、書き、発表する機会を多くする。また、ICTを活用する。
3年	学習面	(1) 音楽表現をするために、豊かな表現力を身に付けさせる。 (2) 音符や楽譜上に記載されている記号を表現に活用できるように意識させる。 (3) リーダーを中心に、お互いに高め合えるような練習をさせる。
	指導面	(1) ホワイトボード、プロジェクター、ICTを活用し、授業の目標、流れを提示、展開する。 (2) 課題の目標を明確に提示し、どのように表現するか考えさせる。 (3) 音楽表現に必要な基礎的な知識・読譜力等を身に付けられるよう、ワークシートを活用し、自ら考え、書き、発表する機会を多くする。また、ICTを活用する。

3 授業改善推進プランの評価（成果の確認）		
(1) 観点別の評価における学期ごとの比較		
(2) 歌唱・器楽の実技試験、定期テスト、ワークシートの活用		
(3) 授業における生徒の様子（発言、授業の取り組み、提出物、等）		

1 日常の学習状況・課題		
1年	学習面	(1) 意欲的に学習に取り組むことができる。 (2) イメージしたものを表現するための、表現方法の幅が狭い。
	指導面	(1) 色彩・レタリング・彫塑などの基礎習得のための教材を工夫し改良する。 (2) 多様な表現技法を紹介しながら、表現意図に応じた指導を工夫する。
2年	学習面	(1) 意欲的に学習に取り組むことができる。全体的に集中力も高い。 (2) 表現意図に応じた創意工夫に、主体的に取り組む姿勢を身に付けさせたい。
	指導面	(1) 多様な技法を紹介し、表現の幅を広げることができるような手だてを工夫する。 (2) 表現活動に対する苦手意識をもつ生徒への指導や支援を行う。
3年	学習面	(1) 全体的な集中力も高く、意欲的に学習に取り組むことができる。 (2) 表現活動に対する興味によって、制作進度に個人差がある。
	指導面	(1) 技法指導を工夫し、表現活動を深めていくことができるようにする。 (2) 表現活動に対する苦手意識をもつ生徒への指導や支援を行う。

2 授業改善推進プラン		
1年	学習面	(1) 色彩・レタリング・彫塑などの基礎を習得できるように指導する。 (2) 教科書や資料集に掲載されている作品を鑑賞し、用具の使い方の工夫に気付かせながら制作に取り組ませる。
	指導面	(1) 作品制作を通して基礎的な学習に取り組ませる。 (2) 教科書、資料集、プリント等の教材を活用しながら基礎的学習を行わせる。 (3) 苦手意識のある生徒には、スモールステップを通して指導を行う。
2年	学習面	(1) 課題内容・作業内容の理解と目標を毎時間把握して、時間内に完成できるように制作に取り組ませる。 (2) 参考作品を活用し、よりよいアイデアや表現の工夫に気付かせる。
	指導面	(1) 多様な表現技法を用いた参考作品を鑑賞し、美術的な制作意欲を高める。 (2) 苦手意識のある生徒には、スモールステップを通して指導を行う。
3年	学習面	(1) 多様な表現技法を用いた参考作品を鑑賞し、創意工夫のある表現を目指す。 (2) 個々の表現意図に応じた、アドバイスや指導方法を工夫する。
	指導面	(1) 多様な表現技法を紹介することで、美術的な制作意欲を高める。 (2) 苦手意識のある生徒には、スモールステップを通して指導を行う。

3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)	
(1) 作品やプリントによる目標達成度の確認。	
(2) 定期考査(実技含)における、理解度(意欲)の評価。鑑賞プリント・制作における感想等。	
(3) プリントを活用した生徒による授業評価。	

授業改善推進プラン

教科名:保健体育科

小平市立花小金井南中学校

1 日常の学習状況・課題		
1年	学習面	(1) 体力要素の投力と全身持久力の向上を図る必要がある。 (2) 心身の発達と心の健康について日常生活と関連付けて考えることが課題である。 (3) 自分で考える力、各場面における状況判断に課題がある。
	指導面	(1) 準備運動の中で基礎体力作りのトレーニング種目を1年間通して指導している。 (2) T・Tの利点を活かし個別指導・習熟度別指導を取り入れて授業展開を図っている。 (3) 授業のねらいを明確化するために、ホワイトボード等を活用して授業展開を図っている。
2年	学習面	(1) 体力要素の投力と全身持久力の向上を図る必要がある。 (2) 健康と環境、傷害の防止について日常生活と関連づけて考えることが課題である。 (3) 言語活動を通して、自己や他者の運動課題を見付け出し解決していく点に課題がある。
	指導面	(1) 準備運動の中で課題に適した補強運動を実施するように指導している。 (2) 授業のねらいを明確にし、理解を促しながら自ら問題を解決できるように指導している。 (3) T・Tの利点を活かし個別指導・習熟度別指導を取り入れて授業展開を図っている。
3年	学習面	(1) 体力要素の投力と全身持久力の向上を図る必要がある。 (2) 健康な生活と疾病の予防について日常生活と関連付けて考えることが課題である。 (3) 言語活動を通して、自己や他者の運動課題を見付け出し解決していく学びの姿がある。
	指導面	(1) 各単元において課題に応じた運動動作を意識するように言葉かけを行う。 (2) 自らの健康・安全の課題に対して適切に対処し、管理していく判断力を養う。 (3) 生徒同士で学び合い、切磋琢磨する環境づくりに努めている。

2 授業改善推進プラン		
1年	学習面	(1) 自己の体力要素の課題を理解し、向上が図れるように意識して取り組む態度を身に付ける。 (2) 発達段階や日常生活における個々に応じた課題を設定し、達成できるようにする。 (3) 体育ノートを有効活用し、振り返りや学びの機会を増やして言語活動の充実化を図る。
	指導面	(1) 年間を通して、補強運動や一校一取り組み(持久走)の中で課題のある体力要素に対し克服を図る。 (2) 習熟度別指導・個別指導の授業方法を取り入れ、運動技能が高まるように授業展開を行う。 (3) スモールステップの課題を設定し、運動が苦手な生徒も積極的に取り組む授業展開を行う。
2年	学習面	(1) 自己の体力要素の課題を理解し、向上が図れるように意識して取り組む態度を身に付ける。 (2) 発達段階や日常生活における個々に応じた課題を設定し、達成できるようにする。 (3) グループ活動で話し合いの場を設定し、他者との違いや自己の考えを振り返るようにする。
	指導面	(1) 年間を通して、補強運動や一校一取り組み(持久走)の中で課題のある体力要素に対し克服を図る。 (2) 個々の課題を明確にし、技術の向上を図れるように学習プリントを有効活用して解決を図る。 (3) スモールステップの授業展開から、習熟度に合わせて授業展開を行っていく。
3年	学習面	(1) 自己の体力要素の課題を理解し、向上できる様に仲間と切磋琢磨して取り組む態度を身に付ける。 (2) 発達段階や日常生活における個々に応じた課題を設定し、解決が図れるように学習する。 (3) グループ活動を通して、思考力・判断力・言語力が向上できるように学習する。
	指導面	(1) 視聴覚機材やICTを利用した授業展開を行い、視覚による運動の構造を理解できる指導を行う。 (2) 体育・保健の両分野の知識・判断力を向上するために、理解しやすい言語指導を行う。 (3) グループ活動を通して、自分たちに適した練習方法や、工夫する態度を身に付ける指導を行う。

3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)	
(1) 体育ノートや学習プリントの内容から毎時間ごとの評価と単元全体における変容を見る。	
(2) 定期的な技能評価を行う。	
(3) 1つの単元終了時に単元テストを実施し、知識や思考・判断の評価を行う。	

1 日常の学習状況・課題		
1年	学習面	(1)与えられた課題をすぐにこなす生徒と、時間内に終わらせることができない生徒の差が大きい。 (2)意欲的に実習や作業に取り組むことができている。また、集中して実習に取り組む生徒が多い。 (3)ものづくりの経験が乏しく、課題解決までの見通しをもって取り組むことが難しい生徒もいる。
	指導面	(1)学習者用端末やモニターなど、視聴覚教材を使用して学習・確認できるような工夫を行っている。 (2)1時間でも充実した授業を行えるような準備をしておく。 (3)実習中、個に応じた指導を行っているが、作業が遅い生徒が出てしまう。
2年	学習面	(1)課題をすぐにこなす生徒と、時間内に終わらせることができない生徒の差が大きい。 (2)意欲的に実習や作業に取り組むことができている。また、集中して実習に取り組む生徒が多い。 (3)ものづくりの経験が乏しく、課題解決までの見通しをもって取り組むことが難しい生徒もいる。
	指導面	(1)学習者用端末やモニターなど、視聴覚教材を使用して学習・確認できるような工夫を行っている。 (2)1時間でも充実した授業を行えるような準備をしておく。 (3)作業中、個に応じた指導を行っているが、作業が遅い生徒が出てしまう。
3年	学習面	(1)与えられた課題をすぐに取り組むことができる生徒が多い。 (2)1時間という短い時間だが、じっくりと作業に取り組むことができている。 (3)ものづくりの経験が乏しく、課題解決までの見通しをもって取り組むことが難しい生徒もいる。
	指導面	(1)限られた時間の中でテキストなどを活用することで、基礎・基本事項の学習定着を図っている。 (2)学習者用端末やモニターなど、視聴覚教材を使用して学習・確認できるような工夫を行っている。 (3)個に応じた指導を行い、実習作業が分かりやすいよう対応を行っているが、時間がかかる生徒もいる。

2 授業改善推進プラン		
1年	学習面	(1)個に応じた指導を充実する。 (2)作業の時間を確保できるよう、導入や教材の工夫を行う。 (3)適切な題材を選択し、毎時間の到達目標をホワイトボードに明確に記し、見通しをもたせる。 (4)夏休みに、生活体験を増やすような宿題を出す。
	指導面	(1)理解を促せる授業プリントなどを作成し、生徒の課題に合わせて改善や修正を行い、さらなる工夫をする。 (2)作業手順の画像表示など視聴覚機器を活用し、生徒が理解しやすいように工夫する。 (3)中間評価(小テスト、学習のまとめ、作品状況など)による学習定着状況の把握し、その生徒に合った課題設定を行うようにする。
2年	学習面	(1)個に応じた指導を充実する。 (2)作業の時間を確保できるよう、導入や教材の工夫を行う。 (3)適切な題材を選択し、毎時間の到達目標をホワイトボードに明確に記し、見通しをもたせる。 (4)夏休みに、生活体験を増やせるような課題を出す。
	指導面	(1)理解を促せる授業プリントなどを作成し、生徒の課題に合わせて改善や修正を行い、さらなる工夫をする。 (2)作業手順の画像表示など視聴覚機器を活用し、生徒が理解しやすいように工夫する。 (3)中間評価(小テスト、学習のまとめ、作品状況など)による学習定着状況の把握し、その生徒に合った課題設定を行うようにする。
3年	学習面	(1)1時間ごとの到達目標を明確にし、集中して作業できるようにしていく。 (2)個に応じた指導を充実させる。 (3)家庭での課題を出し、生活体験を増やしていく。
	指導面	(1)授業プリント・学習ノート等を活用し、短時間での理解を深める工夫を行う。 (2)今後、実習や作業が増えるため、モニターなどの視聴覚教材や学習者用端末を活用して、生徒が理解して作業できる工夫をしていく。 (3)中間評価(小テスト、学習のまとめ、作品状況など)による学習定着状況の把握し、個別に指導を行えるようにする。

3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)	
・中間評価(小テスト、学習のまとめ、レポート、作品状況など)で生徒の取り組みを確認する。	

授業改善推進プラン 教科名:英語科 小平市立花小金井南中学校

1 日常の学習状況・課題	
一年	学習面 多くの生徒が、意欲的に授業での様々な活動に取り組んでいる。生徒の授業の感想では、多くの生徒が授業を楽しんでいる。 ①聞くこと:英語での簡単な指示や、教科書等の簡単な聞き取りはできる。リスニング能力は全体的に高いが、英文の数が多かったり少し複雑になると難しさを感じる生徒もいる。 ②読むこと:大まかに読み取れることはできる。代名詞の表す語や英文の流れをつかむなどを読み取ることが難しい生徒もいる。 ③話すこと:ペアワークに、意欲的に取り組んでいる。事前に練習した内容や予め用意した内容は答えることができるが、即興での回答やプラス1文で答えることに課題がある。 ④書くこと:話すことのできる英文を、書くときになるとできない生徒もいる。英単語のスプリングを覚えることや文構造の理解に課題がある生徒が少なくない。
	指導面 視聴覚機器、デジタル教科書(テキスト)を用いながら、生徒にとって視覚的にイメージしやすく、関心が持てるような指導を心がけている。また、コミュニケーション活動を中心に学習者用端末も活用している。 ①文法の説明以外はなるべく英語で行うように心がけている。また、教科書本文の内容を大まかに聞き取る活動を行っている。 ②教科書本文の内容を、用意した設問を通して読み取る活動を行っている。また、ペアでの話し合いでは疑問点の解決等を行っている。 ③毎時間ペアワークで話す活動を設けている。導入時にはドリルを中心に、復習時にはコミュニケーション型の内容で行っている。 ④話すことから書くことにスムーズにつなげていけるように、ペアワークで話したことを書く時間を設けているが、ほかの3技能に比べて、かけている時間は多くはない。
二年	学習面 多くの生徒が、意欲的に授業での様々な活動に取り組んでいる。発言も積極的に行う生徒も多数いる。 ①聞くこと:絵や写真等の視覚的資料があれば容易に聞き取れる生徒も多い。しかし、話の全体を把握し状況から判断して聞き取る問題には課題がある。 ②読むこと:多少長い文であっても、読み方や設問の方法を工夫すれば読み取れる。また、複文のように1文が長くなると、より難しさを感じる生徒も多い。 ③話すこと:ペアワークに、意欲的に取り組んでいる。ドリル要素のある会話練習は比較的容易である。自由にその場にあった会話を継続したり、即興であるテーマについて話すことは難しい。 ④書くこと:スピーチなどある程度まとまりのある英文を書くことができる。書ける量や文の種類も増えてきたが、正確に英文を書くことは昨年同様に課題である。
	指導面 視聴覚機器を用いながら、生徒にとって視覚的にイメージしやすく分かりやすい、また関心をもてるような指導を心がけている。少人数の特性を活かし、個別に指導しながら基礎・基本の定着を図る。 ①授業内での教師の英語使用で聞くことに慣れる。また、教科書本文の内容を聞き取る活動を行うことで、概要や詳細な情報を聞き取ることに慣れさせる。 ②教科書のReadを利用し、長文を読む練習と問題の答え方の練習をしつら活動を継続的にしている。 ③ペアワークやグループワークを多く取り入れ、教え合いながら、アイデアを共有し、使える表現を増やしていけるようにしている。 ④既習の文構造や表現を使った英文を書く課題を設けながら、よくある間違いを授業で共有し、まとまりのある内容の文章を正確に英文を書く力を付けられるように指導している。
三年生	学習面 多くの生徒が学習意欲が高く、授業に集中しペアワーク等にも和やかに取り組んでいる。 ①聞くこと:1つの箇所を聞き取って答えを導き出す問題はよく聞き取れるが、複数の箇所にまたがって情報を聞き取る問題が十分に聞き取れないことに課題。 ②読むこと:昨年と比べ、ある程度の長さの文章を読み取り、答える力が付いてきた。入試に向けて読解力と読むスピードの向上を図りたい。 ③話すこと:ペアでの会話や発表に意欲的に取り組んでいる。スピーチなど予め準備して発表することはよくできるが、即興での発表や会話、自分から質問することに課題。 ④書くこと:英文を書くことに対する意欲が見られ、書ける量や文の種類も増えてきたが、正確に英文を書くことは昨年同様に課題である。
	指導面 視聴覚機器を用いながら、生徒にとって分かりやすく、関心をもてるような指導を心がけている。 ①授業内での教師の英語使用で英語を聞く習慣を付けながら、教科書本文の内容を聞き取る活動を行うことで、必要な情報や全体を聞き取ることに慣れさせる。 ②帯活動として毎授業100語程度の英文を読んだり、教科書のReadを利用し、必要な情報や概要など読み方の練習と問題の答え方の練習をしつら活動を継続的にしている。 ③ペアワークやグループワークを多く取り入れ、教え合いながら、アイデアを共有し、使える表現を増やすようにしている。 ④単元ごとに既習の表現を使用した英語を書く活動を設けながら、よくある間違いを授業で共有し、正確に英文を書く力を付けられるように指導している。

2 授業改善推進プラン	
一年	学習 関心をもてるような視聴覚機器の利用とワークシート・板書の工夫をし、英語が苦手な生徒も苦手意識なく取り組めるような授業づくりに努める。 ①聞くこと:教科書本文やリスニング教材の内容の聞き取り、教師やクラスメイトの話に注意深く耳を傾けたりすることを通して、必要な情報を聞き取る力を身に付ける。 ②読むこと:大まかに読むことのほか、今後増えていく英文量に対応するため、代名詞の示す内容など細かく部分も確認する。 ③話すこと:Q&Aのペア活動で、質問に正しく答えることに加え、プラス1文の表現をペアやクラスで共有し、会話の幅を広げていく。 ④書くこと:小テストや復習でつづりの定着を図り、正しく書けるようにする。簡単な英語で事実や考えをまとまりのある英文で書く練習を重ね、表現力を伸ばす。
	指導 基礎・基本の定着を図るとともに、4技能の関連した活動を行っていく。十分なインプット量(8割)を保ち、アウトプットの時間も確保していく。また、コミュニケーション活動や意見の共有などの他、個人の振り返りや記録を残すなど学習者用端末を効果的に活用する。 ①聞くこと:教科書の本文内容聞き取りなど、英文を聞く機会を多くつくり、また音読練習で英語らしい音のつながり等も指導していく。 ②読むこと:教科書本文の読みとりの設問をさらに工夫するとともに、新出語の提示の際には、コロケーションにも意識させて指導する。 ③話すこと:正しく質問に答えることができるように、帯活動で繰り返し学習し、定着を図る。また発音やイントネーションを意識して話すように指導する。 ④書くこと:定期的に英文を書く練習をする時間を設け、教科書の文を真似したり、少し変えたりしながら正しく書く練習を徹底的に行う。
二年	学習 関心をもてるような視聴覚機器の利用とワークシートの工夫をし、英語が苦手な生徒も苦手意識なく取り組めるような授業づくりに努める。 ①聞くこと:日常的な話題の会話や説明、リテリングを通して、簡単な英文を聞き取れる力を身に付ける。 ②読むこと:読み取り活動では必要な情報、概要、要点を読み取れるよう、教科書本文の読みとりの活動を続けていく。 ③話すこと:質問に正しく答えることに加え、プラス1文の表現をペアやクラスで共有し、会話の幅を広げていく。 ④書くこと:場面にあった英文を適切な表現を選びながら、自身の意見を取り入れた、まとまりのある英文を書く練習をする。
	指導 基礎・基本の定着を図るとともに、4技能の関連した活動を行っていく。 ①聞くこと:教科書の本文内容の聞き取りなど英文を聞く機会を多くつくり、またリンク指導や、音読練習で英語らしい音のつながり等も指導していく。 ②読むこと:教科書本文の読みとりの設問をさらに工夫するとともに、新出語の提示の際には、コロケーションにも意識させて指導する。 ③話すこと:正しく質問に答えることができるように、帯活動での繰り返し学習やDrillを増やし、定着を図っていく。 ④書くこと:場面にあった適切な表現を書くため、繰り返し適宜既習の英文を書く練習を取り入れる。
三年	学習 視聴覚機器を効果的に用いて生徒の興味・関心を引き出し、苦手な生徒も取り組みやすい授業づくりをする。 ①聞くこと:話されている内容を理解し、必要な情報や概要など正しく聞き取り答える力を伸ばす。 ②読むこと:文章を読むことを楽しめつつ、文書の概要や必要な情報を正しく読み取る力を伸ばす。また、繰り返し音読練習を行い、文章を読むスピードの向上を図る。 ③話すこと:聞かれた内容に対して答えるだけでなく、自分の考えや相手への質問なども付け加えて会話に広がりかもてるように練習する。新出語の提示にはコロケーションも意識させて指導する。また、初見の絵や映像等を見て、それについて瞬時に英語で描写したり、説明したりする練習を増やす。 ④書くこと:書きたい内容を自分の分かる語彙や知っている表現を使って、正しく伝えられるように練習をする。
	指導 同じ内容を「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を使って練習し、文法や語彙の習得を図る。また、様々な場面で中間評価を行い、主体的対話的な深い学びにつなげる。 ①リスニング問題の練習回数を増やし、入試に向けて様々なタイプの問題を練習し、正しく答える力を付ける。 ②2学期以降、文章を読む活動を増やし、様々なタイプの文章を用意する。要点を掴み、正しく答える練習を行う。 ③QAやチャットなど、間違いを気にせず自己表現ができる活動を取り入れ、生徒間で教え合う時間を増やす。新出語の提示にはコロケーションも意識させて指導する。 ④文法や語彙を「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を使って練習し、即興で考えて正しい英文で表現できる力を伸ばしていく。

3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)

- (1)定期テスト、休み明けテスト、小テスト、スピーキングテスト、発表活動、スプリングコンテスト、復習確認テスト
 (2)授業中に扱ったワークシート、単元終了時の自己評価、定期テスト後の振り返り

授業改善推進プラン 教科名:道徳

小平市立花小金井南中学校

1 日常の学習状況・課題		
1年	学習面	①週1回の道徳の時間に教科書等を用いて授業を行っている。集団生活の中での自分と他人についての理解、人との関わり方、物事に対する価値観を育て、養っていくことが課題である。 ②道徳の授業を通して、親切、寛容、誠実、節度、規律、公平公正、正義など、いじめをしない資質を育て、また物事の善悪などの価値観を育てることが必要である。 ③日々の生活で起こった、クラスや個人の問題は適時考えさせる。道徳的価値を高めていくためには、日常生活の課題解決をはじめ、すべての教育活動を通して道徳的課題を考えさせていくことが必要である。
	指導面	①日々の生活で起こった、クラスや個人の問題は道徳の時間だけでなく、適時考えさせ、よりよい対応策や解決方法を見付けていくことが必要である。 ②適時性をもった道徳指導を行なうために、教科書を中心として副教材・時事問題等も活用し、年間計画の配列を考慮して指導を行っている。
2年	学習面	①週1回の道徳の時間に教科書等を用いて授業を行っている。互いに認め合い、高め合える関係の築いていくことが課題である。 ②道徳の授業を通して、親切、寛容、誠実、節度、規律、公平公正、正義など、いじめをしない、周りを見て進んで助け、その場に応じた行動が取れるようになることが必要である。 ③日々の生活で起こった、クラスや個人の生活指導上の問題は適時考えさせ、道徳的課題を考えさせる活動を、すべての教育活動を通して行っている。日常生活の課題解決を通して道徳的価値を高めていくことが必要である。
	指導面	①日々の生活で起こった、クラスや個人の問題を道徳の時間において、再度考えさせ、よりよい解決法を見付けていくことが必要である。 ②適時性をもった道徳指導を行なうために、教科書を中心として、副教材等も適宜利用し、年間計画の配列を考慮して指導を行っている。
3年	学習面	①週1回の道徳の時間に教科書等を用いて授業を行っている。集団生活の中での自分のあり方、周りとの関わり方や距離感を含め、協力して物事を進める必要性を考えることが課題である。 ②道徳の授業を通して、親切、寛容、誠実、節度、規律、公平公正、正義など、いじめをしない、命を大切にす資質を育てることが必要である。 ③日々の生活で起こった、クラスや個人の生活指導上の問題を適時考えさせ、最善の解決法を考えさせる活動を、すべての教育活動を通して行うことが必要である。
	指導面	①日々の生活で起こった、クラスや個人の問題・課題は道徳の時間において、クラスや個人に再度考えさせ、最善の解決法を考えさせることが必要である。 ②適時性をもった道徳指導を行なうために、教科書を中心として、時事問題等も活用し、年間計画の配列を考慮して指導を行っている。

2 授業改善推進プラン

1年	学習面	①道徳の時間に教科書を中心としながらも様々な資料を用いて授業を行い、話し合い活動を通じて主体的に学習させる。そのフィードバックを心がける。 ②道徳の時間で、親切、寛容、誠実、節度、規律、公平公正、正義など、いじめをしない資質を育て、すべての教育活動において道徳的実践力を育成する。 ③日々の生活で起こった、クラスや個人の生活指導上の問題は今後も適時考えさせ、道徳的課題を考えさせる活動を、今後もすべての教育活動を通して行っていく。
	指導面	①グループごとの話し合い活動を取り入れ、主体的、対話的な授業を心がける。議論・討論を通して、多角的・批判的に考えさせ、交流し合うことで深い学びを行う。 ②週1回の道徳の時間を中心に(通して)、自分の役割と責任を自覚させ、集団生活の中で他者との関わり方を考える中で自分のあり方をみつけていく。 ③日々の生活で起こった、クラスや個人の生活指導上の問題は適時共有し合い、考えさせ、課題を考えさせる活動を、引き続き、すべての教育活動を通して行い、道徳的価値観を育成していく。
2年	学習面	①道徳の時間に教科書を中心としながらも様々な資料を用いて授業を行い、話し合い活動を行うことで、様々な視点で物事を考えられるようにする。 ②道徳の時間で、親切、寛容、誠実、節度、規律、公平公正、正義など、いじめをしない、周り協力して物事に取り組む資質を育て、すべての教育活動において道徳的実践力も育成する。 ③日々の生活で起こった、クラスや個人の生活指導上の問題は今後も適時考えさせ、道徳的課題を考えさせる活動を、これからもすべての教育活動を通して行っていく。
	指導面	①道徳の教科書だけでなく、様々な資料を用い、話し合い活動を行い意見を共有、交流することで、様々な視点や立場で物事を考えられるようにする。 ②週1回の道徳の時間に教科書を中心に、副教材も用い、自分の役割と責任や他者との関わり方を考えさせ、集団生活の中で協力・団結することの重要性を考えさせていく。 ③日々の生活で起こった、クラスや個人の生活指導上の問題は適時考えさせ、よりよい解決法を考えさせる活動を、これからも、すべての教育活動を通して行っていく。
3年	学習面	①道徳の時間に教科書を中心とした指導では、教科書以外の参考資料や視覚教材も用いる。話し合い活動を行い、意見を共有、交流することで、様々な視点や立場で物事を考えられるようにする。 ②道徳の時間で、親切、寛容、誠実、節度、規律、公平公正、正義など、いじめをしない、周り協力して最善の解決法を考える資質を育て、すべての教育活動において道徳的実践力を育成する。 ③日々の生活で起こった、クラスや個人の生活指導上の問題のみならず、社会的な問題も適時考えさせ、道徳的課題を考えさせる活動を、これからもすべての教育活動を通して行っていく。
	指導面	①グループ学習を取り入れることで、対話的な学びのある授業を行う。多角的・多面的、ときには批判的に考えさせることを取り入れた学習を進める。 ②生徒が興味や問題意識をもつことができるような身近な社会問題を取り上げ、主体的な学びができるような資料を用意する。 ③日々の生活で起こった、クラスや個人の生活指導上の問題は適時考えさせ、最善の解決法を考えさせる活動を、これからも、すべての教育活動を通して行っていく。

3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)

- ①道徳授業地区公開講座などで教員による相互や保護者地域の方に授業評価をしていただき、検証する。
- ②すべての教育活動を通しての教師による、クラスや個人の観察、及び生徒自身による自己評価を比較する。